

# 商業の動き

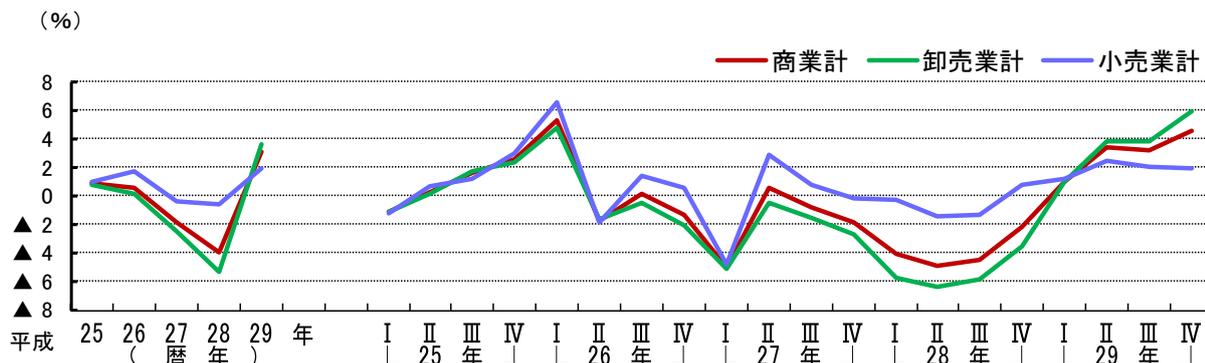
第 1 7 3 号  
平成 30 年 3 月  
経済産業省大臣官房  
調査統計グループ



毎月のご報告ありがとうございます。

平成 29 年の商業販売額は、前年比 3.1% と 3 年ぶりの増加となりました。卸売業は同 3.6% の増加、小売業も同 1.9% の増加となり、ともに 3 年ぶりの増加となりました。(第 1 図)

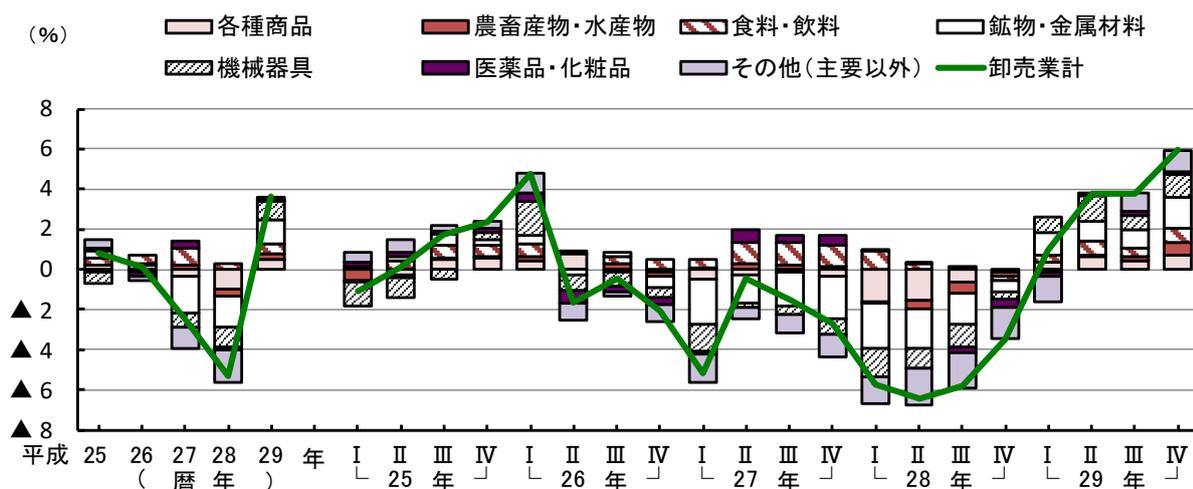
第 1 図 商業販売額の推移(前年(同期)比)



## ○卸売業販売額の動向○

平成 29 年の卸売業販売額をみますと、鉱物・金属材料卸売業は、原油の価格上昇及び輸入増などにより増加、機械器具卸売業は、半導体等電子部品の輸出入増などにより電気機械器具が増加、原動機、半導体等製造装置の輸出増などにより産業機械器具が増加、自動車の輸出増などにより自動車が増加となりました。食料・飲料卸売業は、外食産業向けや食料品の輸出入の増加などにより増加となりました。各種商品卸売業(総合商社など)は、原油・LNG の輸入増や有機化合物の輸出入増などにより増加となりました。(第 2 図)

第 2 図 主要卸売業の販売額前年(同期)比寄与度推移



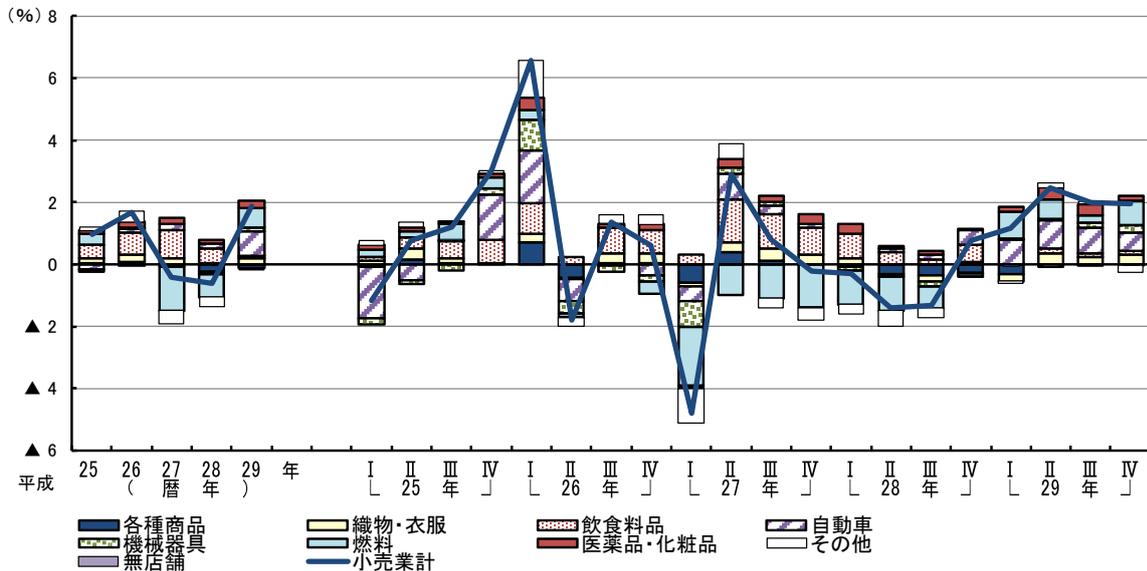
## ☆☆大規模卸売店の動向☆☆

平成 29 年の大規模卸売店の販売額は、鉄鋼が鋼材の国内向け、輸出増加などにより増加、石油・石炭が石油製品の国内向け及び輸出増加、原油・LNG の輸入増などにより増加、化学製品が有機化合物の輸出入が増加したことなどから、前年比 6.2% と 3 年ぶりの増加となりました。

## ○小売業販売額の動向○

平成29年の小売業販売額をみますと、自動車小売業は新型車効果により普通車などが好調だったことなどにより増加、燃料小売業は、石油製品の価格上昇などにより増加、医薬品・化粧品小売業は化粧品の好調などにより増加、繊維・衣服・身の回り品小売業は、季節商材に動きが見られたことなどにより増加、機械器具小売業は、エアコン、洗濯機、冷蔵庫などが好調だったことなどにより増加となりました。（第3図）

第3図 小売業業種別の販売額前年(同期)比寄与度推移



## ☆☆業種別の動向☆☆



- ① 各種商品小売業（百貨店、総合スーパーなど）は、化粧品などが好調だったものの、天候不順の影響から衣料品などの動きが鈍かったことなどにより、前年比▲1.3%と3年連続の減少となりました。
- ② 繊維・衣服・身の回り品小売業は、春前半からの気温上昇や秋後半からの気温低下により季節商材に動きが見られたことなどにより、前年比2.3%と8年連続の増加となりました。
- ③ 飲食料品小売業は、野菜の相場安の影響はあったものの、畜産品や総菜に動きがみられたことに加えコンビニエンスストアの好調などにより、前年比0.3%と11年連続の増加となりました。
- ④ 自動車小売業は、新型車効果により普通車などが好調だったことに加え、輸入車も好調だったことなどにより、前年比6.4%と4年連続の増加となりました。
- ⑤ 機械器具小売業は、エアコン、洗濯機、冷蔵庫などが好調だったことなどにより、前年比2.8%と3年ぶりの増加となりました。
- ⑥ 燃料小売業は、石油製品の価格上昇などにより、前年比8.2%と4年ぶりの増加となりました。
- ⑦ 医薬品・化粧品小売業は、ドラッグストアの堅調及び化粧品が好調だったことなどにより、前年比3.9%と6年連続の増加となりました。
- ⑧ その他小売業は、インテリア用品や家庭用品・日用品が不調だったことなどにより、前年比▲0.2%の減少となりました。
- ⑨ 無店舗小売業は、健康食品などが不調だったことなどにより、前年比▲0.7%の減少となりました。

## ◎百貨店・スーパーの動向◎

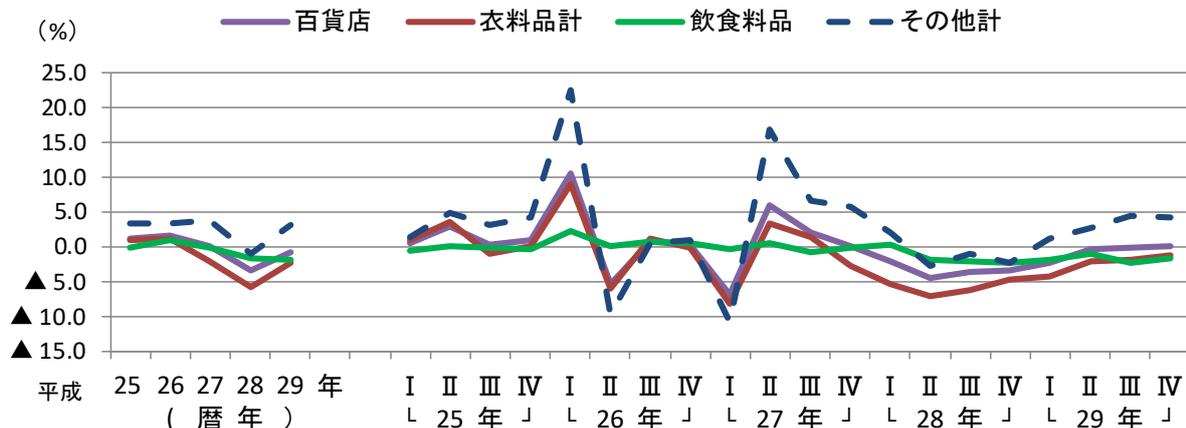
平成29年の百貨店・スーパー合計の販売額は、前年比0.0%の横ばいとなりました。なお、既存店ベースでも、同0.0%の横ばいとなりました。



### ① 百貨店

百貨店は、化粧品や高額商品を中心に国内・インバウンド需要ともに好調だったものの、天候不順や閉店の影響から、婦人服などの動きが鈍かったことにより前年比▲0.7%と3年連続の減少となりました。なお、既存店ベースでみると、同0.6%と2年ぶりの増加となりました。（第4図）

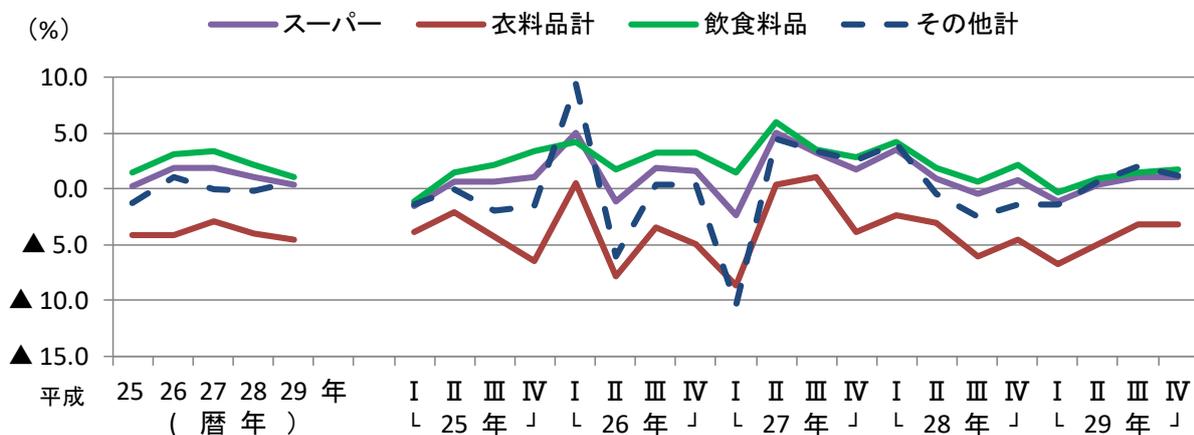
第4図 百貨店販売額の推移(前年(同期)比)



### ② スーパー

スーパーは、天候不順の影響から季節商材の動きが鈍かったものの、新店効果に加え、主力の飲食料品が畜産品などを中心に堅調だったことなどにより、前年比0.4%と7年連続の増加となりました。なお、既存店ベースでみると、同▲0.2%と4年ぶりの減少となりました。（第5図）

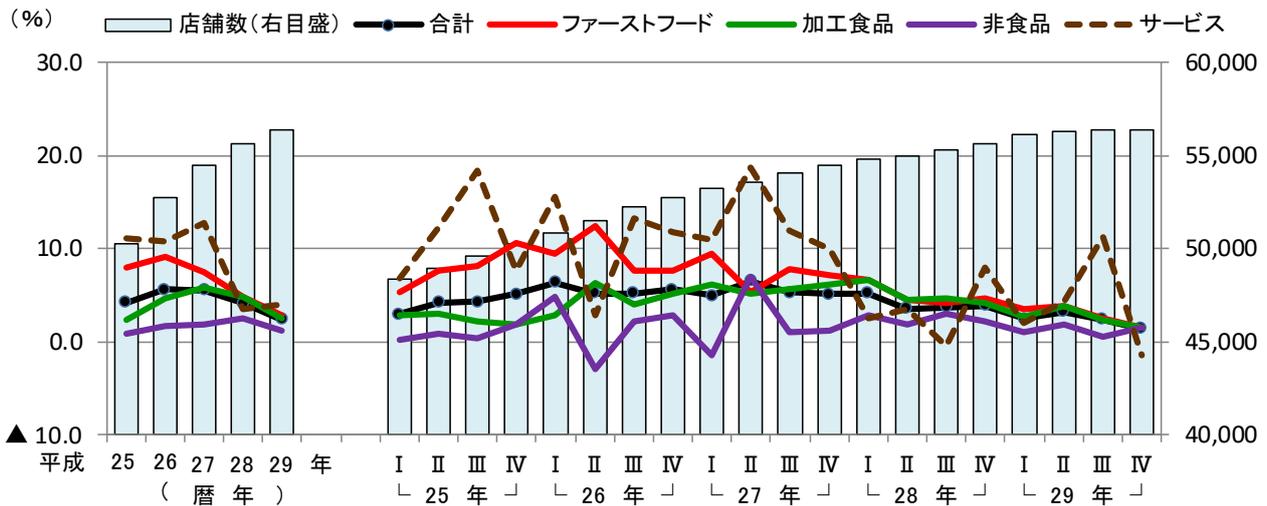
第5図 スーパー販売額の推移(前年(同期)比)



## ◎コンビニエンスストアの動向◎

平成29年のコンビニエンスストアの商品販売額及びサービス売上高の合計は、ファーストフード及び日配食品の好調などにより、前年比2.4%と19年連続の増加となりました。商品別にみると、ファーストフード及び日配食品は、ファーストフード、調理麺、総菜などが好調だったことにより、同2.9%と8年連続の増加となりました。加工食品は、冷凍食品、アイスクリーム、ソフトドリンクなどが好調だったことなどにより、同2.6%と8年連続の増加となりました。非食品は、たばこ関連商品が好調だったことなどにより、同1.2%と19年連続の増加となりました。サービス売上高は、各種チケットなどの取扱い増やプリペイドカードの好調により、同4.0%と11年連続の増加となりました。（第6図）

第6図 コンビニエンスストアの店舗数と販売額の推移(前年(同期)比)



○家電大型専門店の動向○

平成29年の家電大型専門店の販売額は、生活家電、情報家電、通信家電が好調だったことなどにより、前年比3.1%の増加となりました。(第7図)

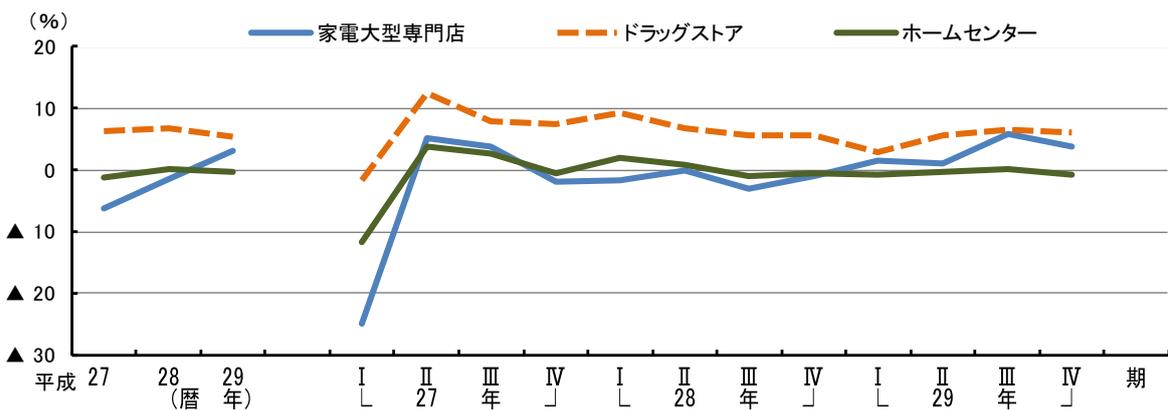
○ドラッグストアの動向○

平成29年のドラッグストアの販売額は、新店効果に加え、食品、ビューティケア、家庭用品・日用品・ペット用品などが好調だったことなどにより、前年比5.3%と3年連続の増加となりました。(第7図)

○ホームセンターの動向○

平成29年のホームセンターの販売額は、インテリア、家庭用品・日用品などが低調だったことなどにより、前年比▲0.4%と2年ぶりの減少となりました。(第7図)

第7図 家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンターの販売額推移(前年(同期)比)



政府統計

商業動態統計調査にご理解いただきましてありがとうございます。  
「商業の動き」については、原則年1回(毎年3月末)、12月分の確報数値を基に発行しております。この「商業の動き」は各種統計調査の結果とともに、下記のホームページでもご覧いただけます。

なお、この資料の内容についてご質問等がございましたら、  
経済産業省 大臣官房調査統計グループ サービス動態統計室 商業動態統計班  
(電話03-3501-1511(代表)内線2898~2899)までご連絡ください。  
経済産業省統計ホームページ : <http://www.meti.go.jp/statistics/index.html>



リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。